

双葉通信【第 274 回】（人生は旅人No.36）“ふくあしまに恋をして 福島人に”

2026 年 4 月 2 日 上田 勉

山形県河北町（かほく）谷地（やじ）のひな祭りれました。

山形県の真ん中あたりに、河北町谷地があります。

「この町には最盛期に 20 軒に及ぶ紅花荷主問屋があり、更に仲買人の花買仲間の目早やサンベと呼ばれる人達が 25 人から 30 人を数え、山形市につぐ紅花の一大集散地でありました。このようにして生産された紅花は、京都や大阪へ出荷されました。寛政年間（1661 年～1673 年）幕府の名を受けた河村瑞賢の差配などもあって、江戸・大坂への物資の輸送が最上川を利用した酒田出しになると、産物の流れがおのずと関西方面に移り、京都・大坂には近江商人や伊勢商人が定住し、最上の商人たちも最上店や谷地店と呼ばれるいわば出張店を持つようになりました。当地方の産物である米・紅花・大豆・青芋・漆・真綿・油などを移出した、その帰り荷として、関西方面から呉服地・繰り綿・瀬戸物・塩・砂糖・小間物等が運び込まれました。特に調度品・絵画・書籍・京人形などの美術工芸品が数多く移入されました。現在貴重な文化財として町内に数多く残る雛人形もまた、その一つでした。」（河北町谷地ひなまつり実行委員会パンフレット）

4 月 2 日、「谷地ひなまつり」に行行って来ました。JR 奥羽本線のさくらんぼ東根駅で降りて、そこから河北町役場まで、町の周遊バスで約 20 分の所でした。畑の木は、多分さくらんぼの木の様です。まだ葉も実もありません。

当日は、大通りに多くの露店が並んでいました。ひなまつりと言うよりかは、普通の祭りです。多くの家族ずれの人が、露天での買い物や食べ歩きを楽しんでいました。祖父・祖母とお孫さんの姿も多くみられました。この祭りは、春を告げる祭りなのかもしれません。私は、露店で、串に刺したお好み焼き（300 円）と今川焼 2 個（200 円）を買いました。お好み焼きは、ソーセージなどの具が入っていました。今川焼は、あんこがいっぱいでした。

町のシャトルバスで、紅花資料館へ行きました。ここは江戸時代の地主で、名主と紅花商人を務めた、堀米四郎兵衛家の跡地を、町が資料館としています。広大な敷地には、蔵造の建物がいくつかあります。その一つが、「紅の館」と言っが資料館になっています。大きな内裏雛（だいらびな）と女雛は圧巻です。他の雛人形も、歴史を感じさせられました。

次に、安部権内家へ行きました。昔安倍家は、大地主だったそうです。商売はしないで、小作人に紅花・米・大豆等を作らせていました。

「安部家は江戸後期から続く家柄であり、明治 6 年の記録によれば村山地方第 4 位の巨大豪農でした。重厚な表門「薬医門（やくいもん）」をくぐった先の母家には広い土間があり、当時の道具類が並びます。母家の奥には蔵座敷がつづき、享保雛・嵯峨人形・押し絵雛・土雛などが飾られます。」（河北町谷地ひなまつり実行委員会パンフレット）。その後、菊地伸男家と細谷昌平家にも行きました。



【紅花資料館の雛飾り（山形県河北町谷地）】（2026年4月3日撮影）



【安部権内家の雛飾り（山形県河北町谷地）】（2026年4月3日撮影）